

問 ゼロメートル災害に備えてこそ

答 浸水津波ハザードマップを作成



佐藤 仁志 議員 無会派

問 弥富市津波避難計画では明らかに「津波・高潮緊急時避難場所」が不足しているが、今後の対策は。

答 〔防災課長〕 収容率は、令和4年3月1日現在127・4%。弥富学区のみ76・7%で、100%達成に向け努めていく。

問 「避難困難地域」の対策は。

答 「浸水津波ハザードマップ」を活用し啓発。

問 弥富市津波避難計画の見直しと対策は。

答 適宜見直し、各地区へ出向き啓発、意識向上に努める。

問 「事前避難対象地域」の指定の予定は。

答 巨大地震発生後、30分以内に30cm浸水する地域を、ハザードマップに指定

し表記。

問 「家屋倒壊等氾濫想定区域」で建築・土木の専門家により、モデル的に調査検討し、家屋の対策を。

答 調査の予定はない。

問 廃止予定の公共施設の防災拠点化は。

答 建て替えや、改築等の計画はない。

問 要支援者の個別避難計画については今後どのように進めていくのか。

答 〔福祉課長〕 先進地の情報収集を進め、自主防衛会、福祉専門職など関係者と協力し進める。



▲木曽川と家屋倒壊等氾濫想定区域

問 見て、聞いて、話し合ってこそ

答 関係機関と様々な検討を

弥富駅自由通路、橋上駅舎化と踏切問題が行政の計画として、最低限必要な調査・検討がされていないことについて以下を問う。

問 花巻市では各種検討がされ公開されているが、本市は、やるべき検討をしていなかったのではないのか。

答 〔市長〕 条件が違ふことで同一にはならない。様々な検討を重ね、議会に報告している。

問 名鉄の線路引き直しやホームと駅舎の新設により、計11億円が追加された時点で、議会の判断を仰ぐべきだったのでは。

答 現計画が最良の計画である。軌道の移設を2回から1回にし、約2億円のコストダウンを図った。

問 住民投票をするべきではないか。

答 実施の考えはない。

問 コミュニケーションの促進が市長のシン（真・新）にぎわいづくりでは。

答 面的整備等が必要不可欠。踏切道拡幅やにぎわい創出を考えながら、まずは現事業を推進。